

# 箕面市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進検討会

## < 第2回 資料 >

---

平成27年(2015年)9月10日

## 目次

### 1 箕面市人口ビジョン

|     |                |       |   |
|-----|----------------|-------|---|
| 1-1 | 地方版人口ビジョンと総合戦略 | ・・・P. | 1 |
| 1-2 | 箕面市人口ビジョンの概要   | ・・・P. | 2 |
| 1-3 | 人口推計方法         | ・・・P. | 3 |
| 1-4 | 人口推計結果         | ・・・P. | 4 |
| 1-5 | 人口推移による影響      | ・・・P. | 5 |
| 1-6 | 人口の将来展望        | ・・・P. | 6 |

### 2 箕面市まち・ひと・しごと創生総合戦略

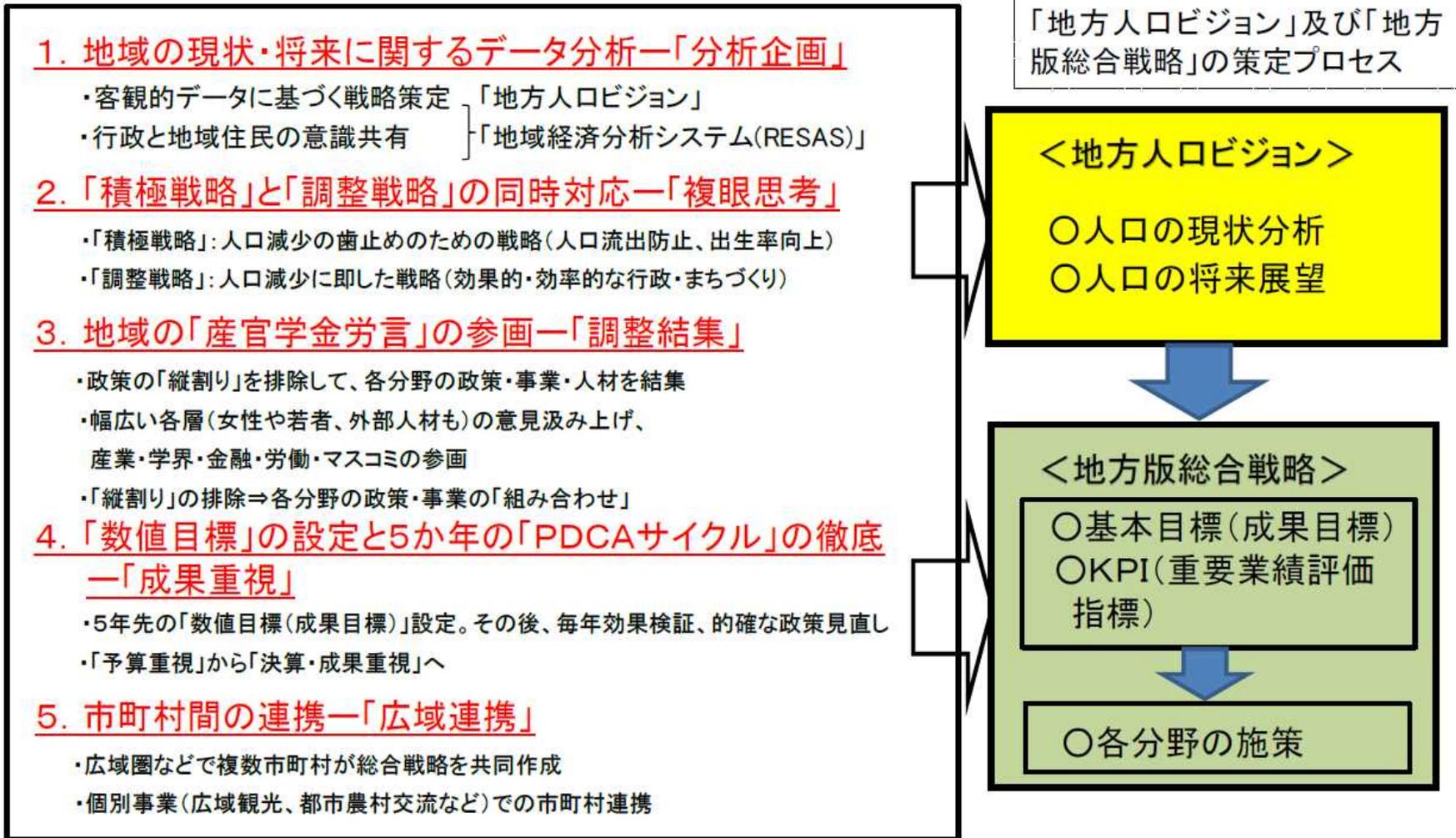
|     |   |       |    |
|-----|---|-------|----|
| 2-1 | 総合戦略の構成と策定基本方針                            | ・・・P. | 7  |
| 2-2 | 基本目標と施策の方向性                               | ・・・P. | 8  |
| 2-3 | 目標Ⅰ 新たな価値を産み出す成長産業を創出する                   | ・・・P. | 9  |
| 2-4 | 目標Ⅱ 箕面へ大きなひとの流れを生み出す                      | ・・・P. | 10 |
| 2-5 | 目標Ⅲ 子どもが幸福に暮らせるまちをつくる                     | ・・・P. | 11 |
| 2-6 | 目標Ⅳ 地域が連携し、だれもが安心・安全に、<br>いきいきと暮らせるまちをつくる | ・・・P. | 12 |

## 1. 箕面市人口ビジョンについて

# 1-1 地方版の人口ビジョンと総合戦略

## 地方版の人口ビジョンと総合戦略

- 人口推計を基に、地方の人口の現状分析と将来展望を人口ビジョンにまとめる。
- 人口ビジョンで設定した将来展望の実現に向け、総合戦略において、その成果目標や施策をまとめていく。



※H27.5 市町村地方創生担当部課長等との意見交換会  
(内閣官房 まち・ひと・しごと創生本部事務局 主催)の資料より抜粋

## 1-2 箕面市人口ビジョンの概要

### 人口動態の分析について

- ▶ 箕面市全体の人口は、65歳以上の人口も増加傾向にあるが、同時に0-14歳人口も微増している。
- ▶ 地区別では、西部地区、中部地区では大きな増減は見られない、北部においては0-14歳人口が増加しており、同時に65歳以上人口が減少し、高齢化が抑制されている。
- ▶ 自然動態について、1995年以降自然増減をみると減少傾向にある。  
合計特殊出生率については、2008年以降増加し1.28となっているが、全国や大阪府と比べて低いものとなっている。
- ▶ 社会動態について、近年では転入超過の傾向が続いている。
- ▶ 性年齢階級別の転入数をみると、15~19歳/20~24歳での転入、20~24歳/25~29歳での転出が顕著であり、進学・就職といったライフイベントの影響が考えられる。
- ▶ 他都道府県・他市町村との転出・転入状況をみると、近隣の北摂地域との転出入が多い。

### 今回実施する人口推計の概要について

- ▶ 地区別・町別での人口が、今後どのように変化していくかを性別・年齢階級別に推計を行う。
- ▶ 推計は、国の手引きに則り、3パターン（①国立社会保障・人口問題研究所推計に準拠、②日本創成会議推計に準拠、③市独自推計）の推計を行う。
- ▶ 推計にあたっては、国立社会保障・人口問題研究所が設定している係数等を活用し、一般的な手法を用いる。
- ▶ 開発区域（箕面森町、彩都、小野原西）については、新市街地人口を用い、推計を行う。  
ただし、箕面森町については、新市街地人口を見直したものをを用いる。

# 1-3 人口推計方法

## 人口推計パターンと主な設定について

|             |                 | ①社人研準拠  | ②創成会議準拠  | ③今回推計 B  |
|-------------|-----------------|---|--|--|
| <b>基準値</b>  |                 | H27年の住基人口   |  |  |
| <b>自然動態</b> | <b>出生に関する仮定</b> | 平成22年の全国の子ども女性比と各市町村の子ども女性比との比をとり、その比が平成27～52年まで一定とする   |  |  |
|             | <b>死亡に関する仮定</b> | <ul style="list-style-type: none"> <li>55～59歳→60～64歳：全国と都道府県の平成17→22年の生存率の比から算出される生存率を、その都道府県内市町村に対して一律に適用</li> <li>60～64歳→65～69歳：上記に加えて、都道府県と市町村の平成12→17年の生存率の比から算出される生存率を市町村別に適用</li> </ul> |  |  |
| <b>社会動態</b> | <b>移動に関する仮定</b> | 平成17年～22年の国勢調査に基づいて算出された純移動率が、平成27～32年までに定率で0.5倍に縮小し、その後はその値を平成47～52年まで一定と仮定  | 全国の移動総数が、社人研の平成22年～27年の推計値から縮小せず、平成47～52年まで概ね同水準で推移すると仮定 | 平成22年と27年の住基人口（性・年齢5歳階級別人口、日本人+外国人）から純移動率を求め、5年単位で同じ移動率で推移させる<br><br>直近の人口増トレンドを反映<br><br>※極端な値となるエリアの移動値は補正をかける（一般的な推計手法）ため、大きくは変わらない |
|             | <b>開発に関する仮定</b> | 考慮せず  |  | 新市街地人口を反映<br>（箕面森町見直し値・彩都・小野原西）<br>※市内転居20.5%分を控除  |

# 1-4 人口推計結果

## 人口推計結果

- 市独自推計によると、箕面市の人口ピークは2025年（平成37年）に143,343人
- 社人研準拠／創成会議準拠パターンでは、2020年（平成32年）に135,500人程度



(単位：人)

| 赤字：人口ピーク |        | 2015年<br>H27 | 2020年<br>H32   | 2025年<br>H37   | 2030年<br>H42 | 2035年<br>H47 | 2040年<br>H52 | 2045年<br>H57 | 2050年<br>H62 | 2055年<br>H67 | 2060年<br>H72 |
|----------|--------|--------------|----------------|----------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|
| パターン①    | 社人研準拠  | 135,063      | <b>135,506</b> | 134,622        | 132,573      | 129,439      | 125,526      | 121,433      | 116,989      | 111,792      | 105,731      |
| パターン②    | 創成会議準拠 | 135,063      | <b>135,685</b> | 134,914        | 132,832      | 129,452      | 124,819      |              |              |              |              |
| パターン③    | 市独自推計  | 135,063      | 141,338        | <b>143,343</b> | 142,509      | 139,942      | 136,181      | 132,516      | 129,078      | 125,133      | 120,304      |

## 1-5 人口推移による影響

- ◇ 人口減少により、労働力の減少や消費の縮小を引き起こし、税収が減少し、公共サービス水準が低下する恐れがある。
- ◇ 子育て層が減少すると、活気が失われ、子育て世代を誘因する魅力づくりやブランド発信が難しくなるという悪循環に陥る。
- ◇ 高齢化が進むと、要支援・要介護者数の増加や高齢者扶養率の低下により、現役世代の負担が増加する。
- ◇ また、地域コミュニティの担い手の減少により、地域の自治・管理等に支障をきたす恐れがある。

### 人口推移による社会的影響

- 公共サービス水準の低下
- 子どもの減少（活力を失う）
- コミュニティの担い手の減少
- 要支援・要介護者数の増加
- 現役世代の負担増



地域の人材育成環境の悪化、  
子育て層の流出、アンバランスな年齢構成の悪循環による  
住宅都市としての魅力の低下

### 人口推移による経済的影響

- 消費人口の縮小
- 所得減に伴う消費支出の減少
- 労働力の減少
- 農林業の担い手不足



地域の産業・雇用等の経済循環の  
仕組みの弱体化

### 人口推移による市財政的影響

- 税収の減少
- 地方交付税交付金の減少



市財政の破綻と公共サービスの  
維持困難化

## 1-6 人口の将来展望

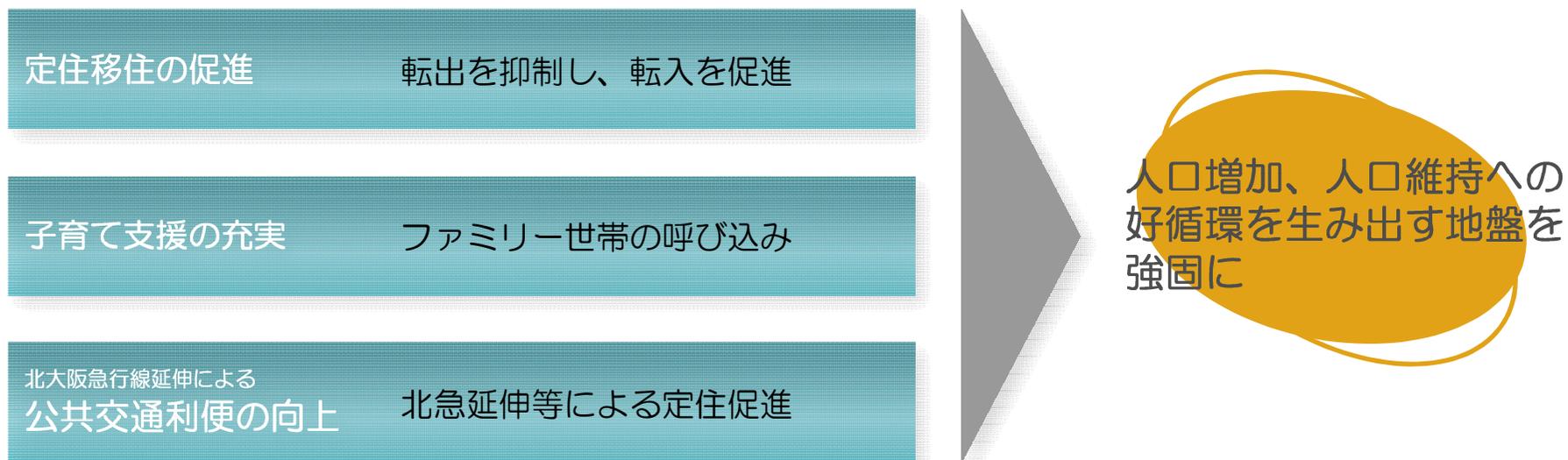
### 将来展望（案）

▶人口推計を受け、今後の施策による効果などを踏まえた将来人口を展望する。（将来展望）

子育て施策の効果的な実施により、子育て世代の流入促進、出産機会の増進など、人口増の好循環を生み出し、また、北大阪急行線の延伸とそれに伴うバス路線網の再編などによる公共交通利便性の飛躍的な向上など、住宅都市の魅力が格段に高まることなどにより、今後も人口が増え続ける地盤をより強固にし、人口増加・人口維持へ繋げていく。

### 主に盛り込む施策効果

近年の人口増のトレンドを継続し、まちの魅力を向上させながら、今後も人口増の好循環を生み出す仕掛けを行っていく。



『箕面市まち・ひと・しごと創生総合戦略』では、上記、将来展望の実現に向け、当面の5年間でめざすべき政策・施策の方向性やその柱立てをとりまとめます。

## 2. 箕面市まち・ひと・しごと創生総合戦略について

## 2-1 総合戦略の構成と策定基本方針

### 地方版総合戦略の骨組み

- まち・ひと・しごと創生法に基づき策定し、策定にあたっては国・都道府県の総合戦略を勘案する。
- 内容としては、大きく以下の3点で構成される。
  - ①目標、②講ずべき施策に関する基本的方向、③その他必要な事項（具体的な施策）
- 基本目標及び具体的な施策における数値目標を設定する。

### 地方版創造戦略の基本的構成



### 数値目標・重要業績評価指標(KPI)の設定

- ▶基本目標における数値目標  
：政策分野ごとに5年後の数値目標
- ▶具体的な施策における数値目標  
：各施策に対して客観的なKPIを設定

#### 重要業績評価指標（KPI）

Key Performance Indicator の略称。  
施策ごとの進捗状況を検証するために設定する指標をいう。

### 戦略策定の方針(案)

- ▶本市においては、平成20年を境目に毎年、人口が安定的に増加してきている。
- ▶大阪府全体の推移を見ると「ほぼ横ばい」が近年のトレンドとなっており、人口の伸び率が高い上位各市でも直近6年間で1~2%の増加率に留まっている中、本市においては、直近6年間で約6%という非常に高い人口増加率となっている。
- ▶魅力あるまちづくりを進める中、とりわけ「子育てしやすさ日本一」を標榜に子育て支援の充実を図り、子育て世帯の移住定住を促進するという、地方創生の趣旨に沿う取り組みをこれまででも実行してきており、その効果がしっかりとあらわれてきている。



上記の現状を踏まえ、この度、総合戦略の策定にあたっては、現在実施している施策を肯定しつつ、それらを戦略にまとめることを基本とし、加えて、地方創生に関する国の支援等を最大限活用しながら、地方創生の取り組みをさらに強力に押し進めていく内容を盛り込んでいくものとする。

## 2-2 基本目標と施策の方向性（案）

### 箕面市人口ビジョンにおける将来展望の実現に向けて

『箕面市人口ビジョン』では、子育て施策の効果的な実施により、子育て世代の流入促進、出産機会の増進など、人口増の好循環を生み出し、また、北大阪急行線の延伸とそれに伴うバス路線網の再編などによる公共交通利便性の飛躍的な向上など、住宅都市の魅力が格段に高まることなどにより、今後も人口が増え続ける地盤をより強固にしていくことし、それを実現するため、国の示す政策4分野ごとの本市の基本目標を設定します。

#### 目標Ⅰ 新たな価値を産み出す成長産業を創出する（産業・雇用）

##### 施策の方向性

- (1) 最先端知的産業等の新たな集積地を形成
- (2) 起業創業を促す環境づくり
- (3) みどりを守り育む農林業の発展

#### 目標Ⅱ 箕面へ大きなひとの流れを生み出す（移住定住促進・観光）

##### 施策の方向性

- (1) 多くのひとの「箕面に住みたい」機運を醸成
- (2) 四季を通じた観光客の集客を促進
- (3) 増加する訪日外国人観光客の獲得

#### 目標Ⅲ 子どもが幸福に暮らせるまちをつくる（子育て・教育）

##### 施策の方向性

- (1) 安心して出産・子育てができ、仕事との両立を実現できる育児環境の充実
- (2) **確かな学力と豊かな心、健康・体力を身につける学校教育の充実**
- (3) 子どもがのびのびと遊び、学べる環境づくり

#### 目標Ⅳ 地域が連携し、だれもが安心・安全に、いきいきと暮らせるまちをつくる（高齢・防災等）

##### 施策の方向性

- (1) より災害・犯罪に強いまちづくりの促進
- (2) だれもが健康で過ごし、活発に活躍することができる環境の充実
- (3) 交通ネットワークの充実

## 2-3 目標Ⅰ 新たな価値を産み出す成長産業を創出する

### 目標Ⅰ

#### 新たな価値を産み出す成長産業を創出する（産業・雇用）

今後、人口減少・高齢化などに伴い市場も大きく変化していくことが予想される中、既存の商業の発展のみならず、新たな価値を生み出す産業の集積を図ると同時に、起業創業を促すことで、強い産業基盤の創出、市内産業の活性化を図ります。

また、箕面の大きな魅力である「みどり」を守り育む農林業の発展を図り、地域に根ざした産業の維持・活性化を目指します。

| 数値目標    | 基準値 | 目標値(H31) |
|---------|-----|----------|
| 開業事業所数  |     |          |
| 農業公社の自立 |     |          |

#### 施策の方向性(1)

##### 最先端知的産業等の新たな集積地を形成

大阪船場繊維卸商団地を擁する船場地域は、本市唯一の業務地区として発展してきましたが、団地の創設からすでに45年を経過し、大きな変革の時期にきています。

今後、“物流のまち”から“人流のまち”へと転換させていくことを念頭に置きながら、北大阪急行線の延伸による圧倒的に優れた交通利便性「地の利」と、周辺に集積している医療・バイオ関連施設が生み出す「知の利」を最大限に活かし、最先端知的産業等の新たな集積地を形成していきます。

#### 施策例

- 大阪大学サイエンスパーク構想
- バイオ医療関係施設の誘致
- 起業創業支援

#### 施策の方向性(2)

##### 起業創業を促す環境づくり

市内産業の活性化・新たな雇用の創出を図るため、起業創業を促し、潜在的な起業希望者が積極的に起業創業できるような環境づくりを進めます。

#### 施策例

- 起業創業支援

#### 施策の方向性(3)

##### みどりを守り育む農林業の発展

農業や林業の発展を支え、箕面の大きな魅力である「みどり」を守り育てていきます。特に、農業が産業として成り立つような仕組みづくりを進め、都市部に残る貴重な田園風景を守っていきます。

#### 施策例

- 農業公社の自立支援
- ゆず産地支援事業

## 2-4 目標Ⅱ 箕面へ大きなひとの流れを生み出す

### 目標Ⅱ

箕面へ大きなひとの流れを生み出す（移住定住促進・観光）

魅力あるまちづくりを進め、住宅都市としての「箕面ブランド」の価値向上を図ると同時に、強かにPRしていくことで市内外の「箕面に住みたい・住み続けたい」機運の醸成を目指します。また、「紅葉の箕面」だけではない、四季を通じた箕面の魅力発信、及び訪日外国人観光客の獲得を通じ、箕面への来訪者数増を図ります。

| 数値目標    | 基準値             | 目標値(H31) |
|---------|-----------------|----------|
| 定住人口の増加 | 135,063人(H27.4) |          |
| 観光客数の増加 | 1,106,000人(H25) |          |

#### 施策の方向性(1) 多くのひとの「箕面に住みたい」機運を醸成

住宅都市としての魅力向上を図ると同時に、その魅力を内外に強かにPRしていくことで、「箕面に住みたい・住み続けたい」機運を高め、移住定住人口の増加につなげます。

##### 施策例

- 定住移住促進事業
- 箕面市北部地域魅力創出事業
- 市民生活アプリの開発

#### 施策の方向性(2) 四季を通じた観光客の集客を促進

秋の箕面大滝に観光客が集中する本市の現状に対し、他の季節や他の場所にも観光客を誘導できるよう、新しい観光資源を開発し、観光客の市内回遊性を高めるとともに、年間を通じた観光客の増加を図ります。

##### 施策例

- 着地型観光促進事業
- 新たな観光資源の開発
- 集客イベントの開催

#### 施策の方向性(3) 増加する訪日外国人観光客の獲得

近年、訪日外国人観光客数が著しく伸びてきており、大阪をはじめとする関西圏に滞在する外国人観光客も増えてきています。外国人観光客に向けて箕面の魅力をPRすることで知名度を向上させると同時に、案内の多言語化など受け入れ環境を整え、来訪する外国人観光客数を増加させます。

##### 施策例

- 国外へのPR
- 外国人観光客の受け入れ環境の充実
- 新たな観光資源の開発

## 2-5 目標Ⅲ 子どもが幸福に暮らせるまちをつくる

### 目標Ⅲ

### 子どもが幸福に暮らせるまちをつくる（子育て・教育）

子どもが、自ら「生きる力」を身に付けることができるよう、保育所・幼稚園・認定こども園・小中学校、家庭、地域が連携するとともに、大人と子どもが互いに信頼し合える多様な人間関係づくりに努めていきます。

また、まち全体で、子どもがのびのびと育つことのできるまち、安心して子どもを育てることのできるまちをめざします。

| 数値目標       | 基準値 | 目標値(H31) |
|------------|-----|----------|
| 保育所の実待機児童数 |     |          |
| 学童保育の待機児童数 |     |          |

#### 施策の方向性(1)

#### 安心して出産・子育てができ、仕事との両立を実現できる育児環境の充実

子どもが心豊かに健やかに育つために、保健、医療、福祉、教育、労働、住宅その他の幅広い分野において、保育所・幼稚園・認定こども園・学校、家庭、地域がそれぞれの役割と責任を果たし、強く連携しながら、安心して子育てができるまちづくりをめざします。加えて、子育てと仕事の両立が実現できる育児環境を整えます。

##### 施策例

- 実待機児童の解消
- 地域に飛び出す子育て支援センター
- 各種保育の充実(延長、病児保育等)

#### 施策の方向性(2)

#### 確かな学力と豊かな心、健康・体力を身につける学校教育の充実

自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力とともに、自らを律しつつ、他人と協調し、他人を思いやる心や感動する心等の豊かな人間性、たくましく生きるための健康や体力等の生きる力を身につけることができる取り組みを進めます。

##### 施策例

- 小中一貫教育の推進
- 英語教育の充実
- 箕面子どもステップアップ調査

#### 施策の方向性(3)

#### 子どもがのびのびと遊び、学べる環境づくり

子どもは、自由にのびのびと遊ぶ中で、自然や社会のルール、人間関係を学んでいきます。子どもの成長や安全に配慮しながら、子どもの自主性や感性を育むことができる遊び場を確保していきます。また、豊かな自然環境を活かした遊び場づくりも、市民との協働により進めていきます。

##### 施策例

- 新放課後モデル事業
- 世代間交流の推進
- 子どもの居場所事業

## 2-6 目標Ⅳ だれもが安心・安全に、いきいきと暮らせるまちをつくる

### 目標Ⅳ

地域が連携し、だれもが安心・安全に、いきいきと暮らせるまちをつくる（高齢・防災等）

自治会を中心とした地域コミュニティを軸に、だれもが安心・安全に、いきいきと暮らせるまちをめざします。

ハード・ソフト両面の対策を進め、より災害・犯罪に強いまちを目指します。また、高齢者から子どもまで、病気の予防と健康づくりに関心を持ち、加えて、多世代交流を促進するなど、市民全員がいきいきと元気に活動ができるまちをめざします。

| 数値目標                | 基準値 | 目標値(H31) |
|---------------------|-----|----------|
| 災害に備えて対策を取っている市民の割合 |     |          |
| 自分が健康であると感じる市民の割合   |     |          |

#### 施策の方向性(1)

より災害・犯罪に強いまちづくりの促進

地震や風水害などの自然災害を最小限に抑え、市民の生命・財産を守るため、災害危険箇所等への対応とともに、地区防災委員や自治会などを中心とした地域防災力を高め、災害に強いまちづくりを進めます。また、犯罪のない安全で安心なまちづくりを推進するため、地域の方々による見守り活動と一体となって、犯罪が起こりにくいまち、犯罪を許さないまちの実現に取り組みを進めます。

##### 施策例

- 地区防災委員会の設置
- 全市一斉総合防災訓練の実施
- 市内防犯カメラ設置

#### 施策の方向性(2)

だれもが健康で過ごし、活発に活躍することができる環境の充実

元気な高齢者が、その元気を維持・増進し、健康で生きがいを持って、はつらつと活躍・活動できる「健康長寿のまちづくり」を進めます。また、地域において、様々な世代の市民がふれあう機会を創出し、多世代交流を活発化させます。

##### 施策例

- 健康長寿推進・在宅保育支援事業
- ラジオ体操&滝道ウォーキングの実施
- 多世代交流センターの充実

#### 施策の方向性(3)

交通ネットワークの充実

住宅都市として魅力向上に必要な要素である交通利便性の向上を図り、また、さまざまな人の外出機会を促すため、鉄道・バスをはじめとする公共交通から、道路交通、自転車道・歩道など、交通全般に係るネットワークの充実を目指します。

##### 施策例

- 北大阪急行線の延伸
- バス路線の再編
- オレンジゆずるバス・タクシーの充実